

国際シンポジウム「住み続けたい町のリスク学」

—— 都市防災について国際レベルの討議が交わされました ——

都市防災を考える国際シンポジウム「住み続けたい町のリスク学」が、去る7月29日に京都大学で行われました。

シンポジウムでは、都市が抱える様々な問題（都市リスク問題）の中でも特に、防災・環境・教育の3点に焦点を絞り、基調講演やパネルディスカッションで国内外の専門家を交えて活発な討議が交わされました。

このほか、西条、西宮、豊岡、北九州の各市とアジア太平洋地域をはじめとする海外12カ国の実務者が集い、数日に渡り防災についてワークショップが行われました。

市庁舎本館危機管理課 TEL0897-56-5151 内線3123



基 調 講 演

木製都市の危機管理

小林正美氏（京都大学大学院地球環境学堂教授）

木製都市は大変燃えやすいもので、古来日本は延焼をどう防ぐかがキーワードだった。江戸時代は建物の破壊による消火が行われ、延焼を防ぐため、道幅を広げ、広場や土手がつくられた。その後、関東大震災や空襲の経験を踏まえ、防火用としてモルタル材が多く建物に使われた。

しかし、阪神・淡路大震災で倒壊した木造住宅の多くはモルタル建築によるもので、伝統的工法による建物は大丈夫だった。伝統的工法による建物は、地震に強い。それは絶えず修理を加えて、油断していないから。木製都市の危機管理は、日ごろの用心とメンテナンスが重要となる。



持続的なコミュニティリスクマネジメント 智頭のまちおこしの事例より

岡田憲夫氏（京都大学防災研究所教授）

鳥取県智頭町が制度化した「日本ゼロ分の1村おこし運動」は、旧態依然とした社会の変革を図るため、住民一人ひとりが一歩踏み出すことで町を活性化させようとするもの。高齢化が進んでいる智頭町では、特産の杉を使い住民自らの手でログハウスを建て、今や「杉の木村」として有名になった。

まちおこしは内発的な動きによるものである。行政任せではなく、自分たちで命・地域を守る自活力が大切。この力は他の人と交流を図り、パートナーシップを取ることで、自分の生命と地域を守る大きな力となる。



防災士養成講座を開催

9月1日の「防災の日」から3日間、防災について一定の知識や技能を有し、災害時に活動できる「防災士」の養成講座が、総合文化会館で開催されました。

防災士は東京都にあるNPO法人・日本防災士機構（古川貞二郎会長）が制度化したもので、8月末現在で全国に約1万2800人の防災士が誕生しています。

講座には、自治会や自主防災組織、消防団、企業、行政機関から約150人が参加し、防災・減災活動の実践に役立つ講習を熱心に受講していました。



▼西条市の災害復旧状況をお知らせします▼

■災害復旧工事の進捗状況（件数）（平成18年9月1日現在）

区分	道路	河川	農林	公園	その他	合計
完了工事	193	104	646	14	12	969
	86	124				210
工事中	9	1	3			13
	5	2				7
発注予定		2				2
合計	293	233	649	14	12	1,201

■主要な災害復旧工事の進捗状況（平成18年9月1日現在）

区分	復旧箇所（該当地区）	件数	進捗率	着手年月
道路（市工事）	市道武丈丸野線（武丈～丸野）	9件	65%	平成17年4月
道路（県工事）	国道194号（中野～藤之石）	16件	96%	平成17年3月
	西条久万線（中野～西之川）	40件	96%	平成17年3月
河川（県工事）	早川（西早川）	2件	80%	平成17年3月 平成19年2月以降予定
	市之川（市之川、津越）	8件	75%	平成17年3月 平成18年5月

■総件数・進捗率 市工事：982件・98% 県工事：219件・97%

■問合せ 市庁舎本館災害復旧対策室 内線5843